

誕生石

住吉大社は、古くから安産に縁のある神社である。住吉大社の伝説的な創始者である 3 世紀の皇后である神功皇后は、夫である仲哀天皇の死後、3 年間にわたって息子の応神天皇を身ごもったといわれている。

誕生石の伝説は、島津家の祖である島津忠久（1179-1227）の誕生に始まる。島津家の言い伝えによると、忠久の母は、有力な武将であった比企能員（?-1203）の妹である丹後局（?-1216）で、父は日本の最初の幕府（1185-1333）を築いた源頼朝であったといわれている。頼朝の妻・北条政子

（1157-1225）は、丹後局に無実の罪を着せ、身重の丹後局は鎌倉を逃げ出した。和歌山の熊野へ向かう途中、彼女は住吉大社に身を寄せ、この大きな石にしがみついて忠久を出産した。大人になった忠久は、頼朝から大隅国と薩摩国（現在の鹿児島県）の軍政を任された。その後、忠久の子孫は日本有数の大名家を築き上げ、最盛期には九州一円を支配した。

人気のある言い伝えによると、住吉大社の誕生石の柵の中から拾った小石は、安産のお守りといわれている。